

## 原 著

頭痛外来開設により受診率が急増した  
片頭痛患者についての検討

多田由紀子, 根来 清, 小笠原淳一, 川井元晴, 森松光紀

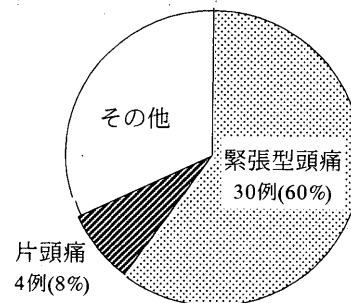
山口大学医学部高次統御系・神経内科学講座 宇部市南小串1丁目1-1 (〒755-8505)

Key words : 頭痛専門外来, 片頭痛

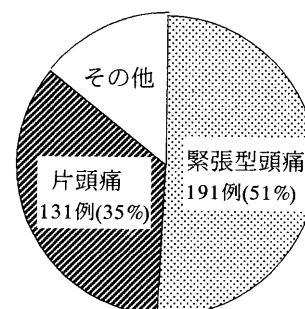
## はじめに

近年, 片頭痛治療薬としてトリプタン製剤が登場してきたことを契機に, 頭痛患者のquality of life (QOL) の向上を目的に, 頭痛診療の見直しが叫ばれるようになってきた。当科では2001年9月に頭痛専門外来を開設した。その前後にローカル新聞やニュースで取り上げられたこともあり, 新患者に占める頭痛患者数の割合を開設後の8カ月間と前年の同時期とで比較検討した結果, 11.7%から47.0%へと開設前後で4倍程度の増加が認められた<sup>1)</sup>。また, 新患者に占める緊張型頭痛の割合は7.0%から23.9%へ, 片頭痛の割合は0.9%から16.4%へといずれも開設後に有意に増加した。ここで, 全頭痛患者に占める緊張型頭痛の割合は30/50例(60%)から191/375例(51%)へと若干減少しているのに対し, 片頭痛患者は4/50例(8%)から131/375例(35%)へと著明な増加がみられた。また, この片頭痛患者の受診率増加の傾向は, その後も長期的に観察された(図1)。以上の結果より, これまで頭痛患者, 特に片頭痛患者が当科外来への受診を控えていた可能性があると考え, その原因につき, アンケート調査を用いて検討を行なった。

(1) 2000年9月～2001年4月(頭痛患者総数: 50例)



(2) 2001年9月～2002年4月(頭痛患者総数: 375例)



(3) 2002年5月～2003年12月(頭痛患者総数: 184例)

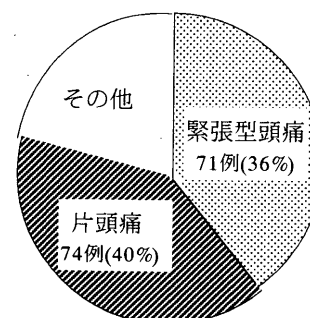


図1. 頭痛患者の内訳

平成15年8月12日受理

## 対象・方法

頭痛専門外来開設後2001年9月1日から2002年4月30日の期間中に当科を受診した頭痛患者のうち、国際頭痛学会の診断基準(1988年)により片頭痛と診断された患者131例の中から72例を無作為で選択し対象とした。年齢、性別、罹病期間、当外来受診前の頭痛の頻度・程度、医療機関への受診状況(未受診者はその理由について)、頭痛に対する対処方法、当外来を受診したきっかけ、および当外来受診の一番の目的について、質問紙自己記入法でアンケート調査を行なった。

## 結 果

男性7例、女性43例の合計50例より回答があった(回収率69.4%)。年齢の内訳は、10~20歳代10例、30~40歳代22例、50歳以上18例。平均罹病期間は15.3年、片頭痛の発現頻度は、一ヶ月平均7.3回であった。アンケート調査の結果のまとめを図2に示す。

### (1) 当外来受診前の頭痛の程度

日常生活ができない (16%)	日常生活に支障あり (66%)	日常生活に支障ないが気になる (18%)
--------------------	--------------------	-------------------------

### (2) 当外来受診前の医療機関への受診状況

定期受診 (12%)	不定期に受診して治療 (32%)	検査のみで治療なし (30%)	受診なし (26%)
---------------	---------------------	--------------------	---------------

### (3) 当外来を受診したきっかけ

頭痛外来の開設を新聞・ニュースで直接知って受診 (66%)	頭痛外来を知人から聞いて受診 (20%)	他院・他科から紹介 (12%)
----------------------------------	-------------------------	--------------------

### (4) 当外来を受診した一番の目的

頭痛の治療を希望 (74%)	頭痛の原因を知る (20%)	検査希望 (6%)
-------------------	-------------------	--------------

図2. アンケート調査結果のまとめ

### 1. 当外来受診前の頭痛の程度

「日常生活ができない」8例(16%)、「日常生活に支障あり」33例(66%)、「日常生活に支障はないが、気になる」9例(18%)、「症状はあるが、あまり気にならない」が0例(0%)であった。

### 2. 当外来受診前の医療機関への受診状況

「定期的(2~4週間に1回)に通院して治療を受けていた」6例(12%)、「頭痛がひどいときなど、不定期に受診して治療を受けていた」16例(32%)、「頭痛に関する検査は受けたことがあるが未治療」15例(30%)、「頭痛に関して、病院・診療所を受診したことはない」が13例(26%)であった。医療機関を受診したことの無い理由としては、「受診したいと思っていたが、どこに受診してよいかわからなかった」が13例中7例で最も多く、その他「頭痛という症状で病院へ受診するのは大げさな感じがしていた」3例、「市販の鎮痛剤がどうにか効いていた」2例、「今回が気になる初めての頭痛であった」が1例という結果であった。

### 3. 当外来を受診したきっかけ

「頭痛専門外来が開設されたことを、新聞やニュースで直接知って受診した」33例(66%)、「頭痛専門外来があることを知人から聞いて受診した」10例(20%)、「他院あるいは他科からの紹介で受診した」6例(12%)、「その他」が1例であった。

### 4. 当外来を受診する前の頭痛に対する対処方法(複数回答可)

「市販の鎮痛剤を服用していた」33例、「病院・診療所から処方された鎮痛剤を服用していた」22例、「寝ていた」24例、「服薬せずに我慢していた」が8例であった。

### 5. 当外来を受診した一番の目的

「頭痛を治療して欲しかった」37例(74%)、「頭痛の原因が知りたかった」10例(20%)、「頭痛に関する検査をして欲しかった」が3例(6%)であった。

## 考 察

アンケート調査の結果より、当科頭痛専門外来を受診した片頭痛患者は、頭痛の頻度が比較的高く重症度も高いことがわかる。また、その多くが頭痛の原因・精査よりも治療を目的に受診していることから、片頭痛患者はQOLが阻害されるため、頭痛治療への関心が高いと考えられる。その一方、当外来

受診前の医療機関への定期受診率は低く、半数ちかくの患者は医師からの薬剤処方を受けていない。このような結果の背景には、医療機関側の問題点として、1) 頭部画像検査による器質的疾患の除外のみ行い、片頭痛の診断が不十分である、2) 片頭痛と診断できても治療に対する知識が不十分で患者が満足していない、3) 患者に対して診断・治療に関する十分な説明ができていない、などが挙げられる。また、患者側では、4) 器質的疾患の除外のみで安心して治療を希望しない、5) 頭痛で受診することを恥ずかしく感じている、など片頭痛が治療の対象になることを認識していないことが問題点として挙げられる。当科受診者の多くが頭痛専門外来の存在を知って受診していることから、これまで専門的な治療を受けたいと思っても受診すべき病院・診療科がわからなかった例も多く存在し、頭痛診療を行う施設についての情報提供不足も、現在の頭痛医療における問題点であることが示唆された。このような頭痛治療に関する情報提供の手段として、当科頭痛専門外来開設時のマスコミによる広報活動はたいへん効果的<sup>1)</sup>であり、市外・県外の遠方からも多数の片頭痛患者が受診し、頭痛の程度・頻度の改善に伴いQOLの向上をもたらしている。

日本人成人のうち、片頭痛で時々寝込む以上の日常生活障害を有する患者は約120万～290万と推定されている<sup>2)</sup>。Sakaiら<sup>3)</sup>も、片頭痛患者の多くが頭痛によって日常生活に支障をきたしているにもかかわらず、その多くが医療機関を受診せず、市販の薬剤を使用しているという結果を示しており、村井ら<sup>4)</sup>は、病院職員においても同様の傾向であることを報告している。なお、Sakaiらの報告例では、頭痛の程度は日常生活ができないが4%、支障ありが40%であるのに比し、当外来受診者ではそれぞれ16%、66%と重症例がより多かった。また、彼らは、片頭痛患者の医療機関への定期受診者が2.7%、未受診者が69.4%と報告しているのに対し、今回の検討では受診率が比較的高い値を示していた。この点に関しては、Sakaiらの調査で対象となった一般片頭痛患者の受診状況と異なり、頭痛専門外来を受診するような患者は、頭痛の程度がより高度で頭痛治療に対する関心も高く、当外来受診前にすでに医療機関を受診している例が比較的多かったためと考えられる。その他、片頭痛患者の医療機関への受診率に影響

を与える因子として、加齢、既婚女性、頭痛の頻度の増加、持続時間の延長、市販薬が無効、随伴症状の悪化などが挙げられている<sup>5,6)</sup>。

泉ら<sup>7)</sup>は、一般脳外科外来と頭痛専門外来の頭痛初診患者につき比較検討を行っている。一般外来においては半数以上が1回しか受診していないのに対し、頭痛専門外来では3回以上の受診者の割合が高く、社会的に多忙と考えられる30歳代患者が多いことから、ADLが阻害される高度な頭痛患者を中心に頭痛治療へのニーズが高い可能性を指摘している。

国外においても、片頭痛患者の受診率が低いことを取り上げた報告は少なくなく、また、自分の頭痛が片頭痛であることを認識していない例も多いことから、一般診療医における片頭痛の診断精度の向上、および医師と患者のコミュニケーションの重要性を指摘する報告も認められる<sup>8)</sup>。このように、国内外ともに頭痛医療に関して共通の問題点を抱えていることがわかる。

## 結 論

1. 頭痛専門外来開設後に、片頭痛患者の受診率が急増した原因について検討を行った。
2. 片頭痛患者の多くは頭痛の専門的な治療を希望しているが、受診科がわからず、また、一般医療機関を受診しても検査が主体で十分な治療を受けていない例が多いことがわかった。
3. 以上は、今後の頭痛医療における重要な課題と思われた。

## 文 献

- 1) 柿沼 進, 根来 清, 多田由紀子, 森松光紀. 頭痛専門外来開設に伴う外来受診状況の変化—マスコミを用いた広報活動の影響について—. 神経治療 2003; 20: 63-69.
- 2) 根来 清, 森松光紀. 疫学からみた頭痛の社会的意義. *Brain Medical* 2000; 12: 11-19.
- 3) Sakai F, Igarashi H. Prevalence of migraine in Japan: a nationwide survey. *Cephalalgia* 1997; 17: 15-22.
- 4) 村井麻衣子. 病院職員における片頭痛とその受療行動(会). 神経治療 2002; 19: 292.

- 5) 五十嵐久佳, 坂井文彦. 特集 神経疾患の新しい治療. 片頭痛の治療. 神経進歩 2001 ; 45 : 546-557.
- 6) Lipton RB, Stewart WF, Simon D. Medical consultation for migraine : results from the American Migraine Study. *Headache* 1998 ; 38 : 87-96.
- 7) 泉 孝嗣. 当院における脳外科外来と頭痛専門外来の受診患者の特性について (会). 第30回日本頭痛学会総会抄録集 2002 : 55.

## A Dramatic Increase in the Number of Outpatients with Migraine after the Opening of a Headache Clinic

Yukiko TADA, Kiyoshi NEGORO, Jun-ichi OGASAWARA,  
Motoharu KAWAI and Mitsunori MORIMATSU

*Department of Neurology and Clinical Neuroscience  
Yamaguchi University School of Medicine,  
1-1-1 Minami Kogushi, Ube, Yamaguchi 755-8505, Japan*

### SUMMARY

We opened a headache clinic in September 2001. The number of outpatients with headache visiting our clinic from September 2001 to April 2002 increased about 4 times more, compared with the number during the same period in the previous year. In those two periods, the percentage of patients with tension-type headache in patients among headaches of all types decreased from 60% to 51% , but those with migraine dramatically increased from 8% to 35%. These data suggest that many patients with migraine refrain from consulting physicians, and we examined the reason with a questionnaire including questions on headache characteristics, usual medication for headache and motives of visiting our clinic. The results of this survey indicate that many patients with migraine wish to be treated for their headache, but they cannot consult for lack of information about the location of the clinic that treats the patients with headache, or they cannot receive the diagnosis of migraine and satisfactory treatments from the primary care physicians.